

淀川水系流域委員会殿

2008. 5. 25

佐川克弘

京都府営水道の需要予測と基本水量

H16・10 需要予測は、H32における基本水量（府営水道が各市町に供給すべき一日最大給水量）と考えられます。そこで現行基本水量、H15実績、H32予測の比較分析を別表のとおりまとめてみました。私はH32予測の特徴として次の三つを挙げる事ができると考えます。

1. ミートホープ商法の解消を目指していること

府営水道が宇治市、城陽市、八幡市、久御山町の3市1町に対して設定している「基本水量」にはクウキ（空気）が24,000m³も混ぜられていますが、H32予測には混ぜられていません。その結果両者の比率は74.5～84.9%となりました。しかし何時クウキ販売を止めるつもりか明確ではありません。

2. 予測値が現行基本水量を上回るのは京田辺市と木津川市

京都府の予測が今まで一度も的中したことがないだけに、これら2市の将来が心配です。過大な予測は、結果として大量の水余りをもたらすからです。

3. 不自然な乙訓2市1町の予測値

乙訓2市1町の予測値は、すべて現行基本水量と同じで不自然です。特にH15実績の約2.5倍とされている大山崎町については、「答え」が先行してその「答え」に合わせるために他の要素（例えば自己水量）を大山崎町の合意がないまま京都府が勝手に決めたのではないかとの疑いが濃厚です。

また京都府は、自らの願望として企業の水源転換量4,393m³/日も勝手に「予測」に織り込みました。市町も企業もこの京都府の願望に合意しているとは考えられません。これも先行する「答え」に合わせるためではないでしょうか。

※1. および3. については3.13付意見書「京都府営水道とミートホープ」を参照してください。

以上

京都府営水道の需要予測分析表

単位：m³/日

	①基準水量	②H15実績	③H32予測	④(③/②)	⑤(③/①)
宇治市	62,800	48,736	53,300	109.4	84.9
城陽市	14,100	9,893	10,500	106.1	74.5
八幡市	19,900	14,783	15,200	102.8	76.4
久御山町	11,200	8,753	8,500	97.1	75.9
京田辺市	12,500	8,751	13,800	157.7	110.4
木津川市	15,000	9,819	16,200	165.0	108.0
精華町	8,500	5,655	8,300	146.8	97.6
向日市	12,700	9,440	12,700	134.5	100.0
長岡京市	26,000	25,231	26,000	103.0	100.0
大山崎町	7,300	2,955	7,300	247.0	100.0
合計	190,000	144,016	171,800	119.3	90.2

(注) 京都府が公表している府営水道の給水能力はH15現在166,000 m³/日。但しその内48,000 m³は暫定水利権。
なお未利用の水利権は46,800 m³/日。